

命を守る最前線

病气やけがなどの緊急時において、高度で先進的な医療を受けられること。日頃から気軽に相談できる医師が身近にいたこと。いずれも私たちが住み慣れた地域で安心して暮らしていくために必要なことであり、私たちの願いでもあります。

今回は本市における先進的な医療施設とそこで働く人たちに注目してみます。さらに身近な主治医である「かかりつけ医」について、その必要性と選び方のポイントなどを紹介します。

問い合わせは
市政発信課 ☎898-6642



本市の医療環境

全国屈指の高水準

全国的に医師不足が叫ばれている中、本市の「人口10万人あたりの医師数」は全国の数値を大きく上回っています。(表1のとおり)

1次医療としての「かかりつけ医」が充実しているだけでなく、2次医療としての総合病院などが集中していることから、本市には市民一人一人の健康を支える十分な環境が整っています。

最先端医療施設の導入

平成15年3月に前橋赤十字病院が高度な医療設備・

技術を備え、24時間体制で最良の医療を提供できる高度救命救急センターに認可されました。また、昨年3月に、群馬大学医学部附属病院が世界最先端のがん治療である重粒子線治療を開始しました。(全国では高度救命救急センターが27施設、重粒子線治療施設が3施設(下図のとおり))

こうした高度で先進的な医療技術の充実が、市民生活のさらなる安心へとつながります。

医師たちの懸命な取り組み

これらの施設で働く医師

全国の高度救命救急センターと重粒子線治療施設

- 高度救命救急センター(全国27施設)
- 重粒子線治療施設(全国3施設)

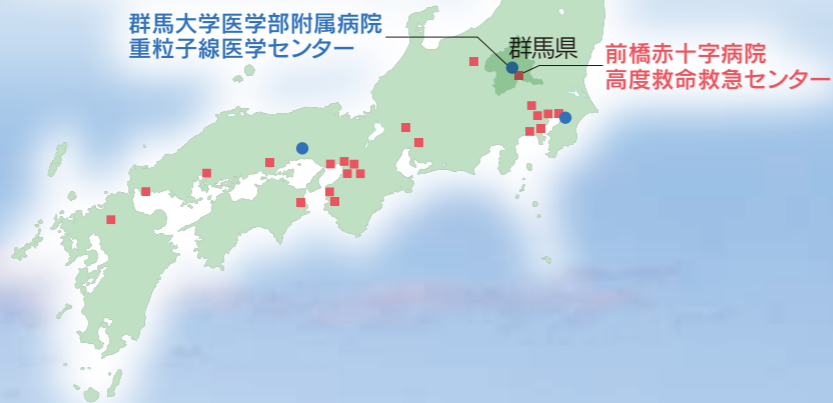


表1 人口10万人あたりの医師数

医師数 (人口10万人あたり)	
前橋市	410.1人
群馬県	208.1人
全国	224.5人

平成20年12月31日現在

